

「平等の思想」について I

……しかし、この平等の思想こそ、ブルジョア民主主義的任務のもっとも完全な、一貫した、断固たる表現なのである。このことをわすれたマルクス主義者には、マルクスの『資本論』第一巻と、エンゲルスの『反デューリング論』をみるようにすすめることができる。平等の思想は、農奴制のあらゆる遺物との闘争、商品生産のもっとも広範で純粋な発展のための闘争を、なによりも完全に表現するものである。

われわれのあいだには、ナロードニキの「平等主義的」土地法案の反動性を論じるばあい、このことをわすれるものがしばしばある。

平等は、自由な資本主義と商品生産との諸条件をもっとも完全に実現することを、思想的に表現するだけではない。物質的にも、すなわち、農奴制から成長してくる農業の経済関係の分野でも、小生産者の平等は、資本主義農業のもっとも広範で、完全で、自由な、そして急速な発展の条件である。

……だから、平等の思想は、政治闘争への刺激になるという意味ばかりでなく、農業から農奴制の遺制を経済的に一掃する刺激となるという意味でも、農民運動にとってもっとも革命的な思想である。

ナロードニキが、平等は商品生産を基礎としてたもつことができるとか、この平等は社会主義への発展の要素となることができるとか夢想しているかぎりでは、彼らの見解は誤っているし、彼らの社会主義は反動的である。あらゆるマルクス主義者はこのことを知り、このことを記憶しておかなければならない。しかしマルクス主義者が、この平等の思想そのものと、ありとあらゆる均分計画が、社会主義革命の任務ではなくてブルジョア革命の任務を、また資本主義との闘争の任務ではなくて地主的・官僚的制度との闘争の任務をもっとも完全に表現するものであることをわすれるならば、それはブルジョア民主主義革命の特殊な任務を歴史的にみるという自分の仕事を裏ぎるものであろう。……

プロレタリアートが全力をあげて第二の道（〔アメリカ型（地主経営が一掃され、すべての土地が農民の手にうつる）道〕注 青山）を支持しなければならないことは、明らかである。このばあいにはじめて、勤労階級は、最後のブルジョア的幻想——というのは、平等の社会主義は、小経営主の最後のブルジョア的幻想だからである——を、もっとも急速に克服することができるであろう。このばあいにはじめて、人民大衆は、ありとあらゆる空想的な均分計画が無力なこと、資本の権力にたいして無力なことを、書物からでなく体験から学び、きわめて短い期間内に実際に経験するのである。またこのばあいにはじめて、プロレタリアートは、もっとも急速に、「勤労的」すなわち小市民的伝統を振りおとし、こんにち不可避免的に彼らのうえにおわされているブルジョア民主主義的な任務を脱して、彼ら自身の真に階級的な、すなわち社会主義的な任務に、全身を打ちこめるようになるであろう。注) ……は青山の略

第 12 卷 P358~360 『ロシア革命の強さと弱さ』

『ナーシェ・エーホ』第10および第12号、1907年4月5日および7日

ポイント

平等は、自由な資本主義と商品生産との諸条件をもっとも完全に実現することを、思想的に表現するだけではない。物質的にも、経済関係の分野でも、資本主義のもっとも広範で、完全で、自由な、そして急速な発展の条件である。

ナロードニキが、平等は資本主義的生産を基礎としてたもつことができるとか、この平等は社会主義への発展の要素となることができるとか夢想しているかぎりでは、彼らの見解は誤っているし、彼らの社会主義は反動的であり、夢想である。

この「平等の思想そのもの」「ありとあらゆる均分計画」は「社会主義革命の任務ではなくてブルジョア革命の任務である。

※資本主義の基で平等化しても社会主義にはならず、すぐ不平等が生まれる。

「平等の思想」について II

……資本主義は、中世的巨大土地所有を打ちくぐり、もっと「均等的」な土地所有からはじめて、そのなかから早くも新しい大農業をつくりだす、——雇役と債務奴隷制を基礎とするのではなく、賃労働、機械、高度の農業技術を基礎とする、大農業をつくりだすのである。

すべてのナロードニキの誤りは、彼らが、小経営主の狭い視野にとどまっていた、農民が農奴制のくびきを脱してはいりこむ社会関係のブルジョア性を見ないことにある。彼らは、農奴制的巨大土地所有の粉碎のスローガンとしての、**小ブルジョア的農業の「勤労原理」と「均等性」とを、なにか絶対的なもの、自足的なもの、ブルジョア的でない特別な制度を意味するもの**にしているのである。

一部のマルクス主義者の誤りは、ナロードニキの**理論**を批判するにあたって、**農奴制との闘争におけるその理論の歴史的に現実的な、そして歴史的に妥当な内容**を見のがしているところにある。彼らは、「勤労原理」と「均等性」とを、おくれた、反動的な、小ブルジョア的**社会主義**だとして批判している。この批判は正しい。しかし彼らは、これらの理論が、進歩的な、革命的な小ブルジョア的民主主義を反映していること、これらの理論は、古い、農奴制的ロシアにたいするもっとも断固とした闘争の旗として役だつことを、わすれているのである。平等の思想は、一般には絶対主義の旧秩序との闘争では、とくには古い農奴制的、大領地的な土地所有との闘争では、もっとも革命的な思想である。平等の思想は、それが封建的、農奴制的な不平等との闘争を表現するものであるかぎり、小ブルジョア的農民にあつては当然なものであり、進歩的なものである。土地所有の「均等性」の思想は、それが、7デシャチーナの分与地で暮らしを立てていて地主のため零落させられている一千万の農民が、平均2、300デシャチーナにのぼる巨大土地所有の**分割**をしようとしている志向を表現するものであるかぎり、当然なものであり、進歩的なものである。そして現在の歴史的時期には、この思想は**実際に**この志向を表現している。この思想は、徹底的な**ブルジョア革命**におしやるのであるが、誤ってそのことを、もやもやとした**えせ社会主義的**な言辞でつつんでいるのである。ブルジョア的スローガンを社会主義的な言葉

でおおうという欺瞞を批判しながらも、このスローガンが**農奴制にたいする**闘争におけるもっとも断固とした**ブルジョア的**スローガンであるという、その歴史的に進歩的な意義を評価できないマルクス主義者は、悪しきマルクス主義者であろう。ナロードニキには「社会化」のように見えるこの変革の現実の内容は、資本主義のための道をもっとも徹底的に清めること、農奴制をもっとも決定的に根絶することにあるだろう。…………この「均等性」は、実際にはもっとも急進的なブルジョアジーの志向を**表現**しているのに、ナロードニキは、この「均等性」はブルジョア性をなくすものであると考えている。だが、「均等性」のうちにあるそれ以上のものはすべて、小ブルジョアのイデオロギー的**煙**であり、幻想である。 注) ……………は青山の略

第 13 卷 P232~233 『1905~1907 年のロシア革命における社会民主党の農業綱領』

1907 年 11 月~12 月に執筆

ポイント

平等の思想は、一般には絶対主義の旧秩序との闘争では、とくには古い農奴制的、大領地的な土地所有との闘争では、もっとも革命的な思想である。平等の思想は、それが封建的、農奴制的な不平等との闘争を表現するものであるかぎり、小ブルジョアの農民にあっては当然なものであり、進歩的なものである。